

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成25年8月15日(2013.8.15)

【公開番号】特開2013-31511(P2013-31511A)

【公開日】平成25年2月14日(2013.2.14)

【年通号数】公開・登録公報2013-008

【出願番号】特願2011-168332(P2011-168332)

【国際特許分類】

A 6 1 B 5/00 (2006.01)

A 6 1 B 5/055 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 5/00 F

A 6 1 B 5/05 3 9 0

【手続補正書】

【提出日】平成25年7月1日(2013.7.1)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

相互に直交する方向に配置された3個の磁気センサ(2,3,4)と該磁気センサの出力信号を演算処理して磁束密度(Bv)を演算する磁束密度演算機能(5)からなる磁気被曝測定器であって、該磁気被曝測定器の筐体(1)の内部に時計機能(6)と積算機能(7)と表示機能(8)を備え、前記磁束密度(Bv)を該時計機能(6)と該積算機能(7)によって積算した磁束密度積算値(Bs)を前記表示機能(8)に表示することを特徴とする磁気被曝測定器。

【請求項2】

請求項1に記載の磁気被曝測定器において、磁束密度積算閾値(9)と磁束密度積算値比較機能(10)を備え、磁束密度積算値(Bs)と磁束密度積算閾値(9)を前記磁束密度積算値比較機能(10)で比較し、該磁束密度積算値比較機能(10)の測定値が磁束密度積算閾値(9)を超えた場合に表示機能(8)を動作して磁束密度(Bv)及び磁束密度積算値(Bs)を該表示機能(8)に表示する磁気被曝測定器。

【請求項3】

請求項1又は2に記載の磁気被曝測定器において、平均値演算機能(11)を備え、該平均値演算機能(11)によって磁束密度積算値(Bs)と時計機能(6)から得られる時間から平均磁束密度値(Ba)を求め、該平均磁束密度値(Ba)を表示機能(8)に表示する磁気被曝測定器。

【請求項4】

請求項3に記載の磁気被曝測定器において、平均磁束密度閾値(12)と平均磁束密度値比較機能(10)を備え、平均磁束密度値(Ba)と該平均磁束密度閾値(12)を該平均磁束密度値比較機能(13)で比較し、該平均磁束密度値比較機能(13)の測定値が平均磁束密度閾値(12)を超えた場合に表示機能(8)を動作して平均磁束密度値(Ba)を該表示機能(8)に表示する磁気被曝測定器。

【請求項5】

請求項1に記載の磁気被曝測定器において、磁束密度閾値(14)と磁束密度比較機能(15)を備え、磁束密度(Bv)と該磁束密度閾値(14)を該磁束密度比較機能(15)で比較し

、該磁束密度比較機能(15)の測定値が磁束密度閾値(14)を超えた場合に表示機能(8)を動作して磁束密度(Bv)を該表示機能(8)に表示する磁気被曝測定器。

【請求項6】

請求項1乃至請求項5のいずれかに記載の磁気被曝測定器において、表示機能(8)として使用者の視覚又は聴覚に訴える複数の表示手段を備える磁気被曝測定器。

【請求項7】

請求項4または請求項5のいずれかに記載の磁気被曝測定器において、該平均磁束密度閾値(12)または該磁束密度閾値(14)またはその両方を設定する設定機能(16)を備える磁気被曝測定器。

【請求項8】

請求項1乃至請求項7のいずれかに記載の複数の磁気被曝測定器にはそれぞれ通信機能(18)を備え、各磁気被曝測定器が持つ情報を相互に通信可能とする磁気被曝測定器。

【請求項9】

請求項1乃至請求項9のいずれかに記載の磁気被曝測定器において、磁気被曝測定器の筐体(1)に装着機能を備え、人体または他の物体に装着できる磁気被曝測定器。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0020

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0020】

本発明に係る複数の磁気被曝測定器にはそれぞれ通信機能を備え、各磁気被曝測定器が持つ情報を相互に通信可能とする。このことにより、装置をコンパクトかつ軽量にすることができ、携帯に便利となる。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0021

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0021】

すなわち、磁束密度積算値や平均磁束密度値や磁束密度を数値で表示するには、液晶などによる出力装置が必要になる。また磁束密度積算閾値や平均磁束密度閾値や磁束密度閾値を設定するには、キーボードなどの入力装置が必要になる。このような出力装置や入力装置は、ある程度の大きさがないと、確認したり操作したりすることができない。筐体が大きくなれば必然的に重くなる。また出力装置や入力装置が消費する電力も必要なため、電池動作の場合、動作時間が短くなるなど、機能を高めるために生じる多くの欠点が、各磁気被曝測定器に備えられた通信機能による情報交換により、解消できるのである。